

## コミュニティ形成を促進するための 情報共有の方法とその課題

— 八木山動物公園 案内ボランティア『楽芸員ダッチャ』活動を対象として —

プロジェクト代表者：両 角 清 隆<sup>1)</sup>

プロジェクト参加者：佐 藤 飛 鳥<sup>2)</sup>・二 瀬 由 理<sup>2)</sup>

篠 原 良 太<sup>3)</sup>・堀 江 政 広<sup>3)</sup>

プロジェクト連携先：仙台市 八木山動物公園 大内園長・小野寺主幹  
八木山連合町内会, 八木山南連合町内会及び  
東北工業大学の案内ボランティア楽芸員ダッチャメン  
バー&サポーター

### Information Sharing Method and Issues for Promote Community Formation : Focus on Animal Guide Volunteer at Yagiyama Zoo

#### Abstract

In modern society, creating a new community for social and cultural purposes with diversity of people and the backgrounds is an important issue. The new community is different from traditional communities, such as a company or region. Therefore, the purpose of this study is to explore the elements for the proper generation of new community, through the process of making a new community as 'animal guides volunteer at Yagiyama Zoo'. In this paper, we considered the importance of information sharing for proper coordination in the community, and confirmed following tasks and elements: 1. Communication of community depends on users media literacy and the communication device. 2. The role of supporter who supports the acquisition of media literacy is also important. 3. In generation stage of new community without leader, promoting by coordinator is needed. However in the next stage, the role should be pass to new community leader to avoid inhibit their spontaneity.

#### 1. 本稿の背景及び目的

本プロジェクトは、八木山動物公園と八木山地域の活性化を目的として東北工業大学ライフデザイン学部の教員（開始当初は7名）の参加を受け、2009年より活動を開始した。この間、動物公園関係者と協力しながら、動物案内ボランティア『楽芸員ダッチャ』を3期に渡り延べ12名養成してきた（2013年度末時点）。最終的に、構成員自身が主体となって活動を継続していくことができるボランティアサークル作りを目指している。

---

1) 東北工業大学 ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科 教授  
2) 東北工業大学 ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科 准教授  
3) 東北工業大学 ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科 准教授

これまでの過程で、案内ボランティアの養成プロセス（研修）については動物公園の協力もあり、ある程度経験値が上がってきている。一方、どのようにメンバーを募集するか、どのように活動を発展させていくかについては、第3期を終了した現在でも試行錯誤の段階と言える。特に、地元町内会を基盤とし、八木山動物公園を活性化するという精神的・文化的充実を図ろうとする新たなコミュニティをいかに形成していくかは、C・H・Cooleyとその後継者らの言う「第一次集団」(primary group)をベースにした「第二次集団」(secondary group)への移行であり、さらにR・M・MacIverの言う、「コミュニティ」(community)をベースにした「アソシエーション」(association)への移行段階である。両者は相似した概念であるが、本稿では、地域性をベースにし、地域性を重要視しながら新たなボランティアサークルの創出を目指すものであり、MacIverの論により近い立場で展開するものである。

本稿では、これまでサポーター・ファシリテーターとして活動に参加することで得られた、活動の内容とコミュニケーション支援ツール及びメンバーの経験・能力の関係について、知見を紹介し、また課題も明らかにする。なお、本論文中で使用する『コミュニケーション』の対象は、主にメンバー・サポーター（動物公園関係者を含む）間とメンバーと来園者間についてである（図1）。

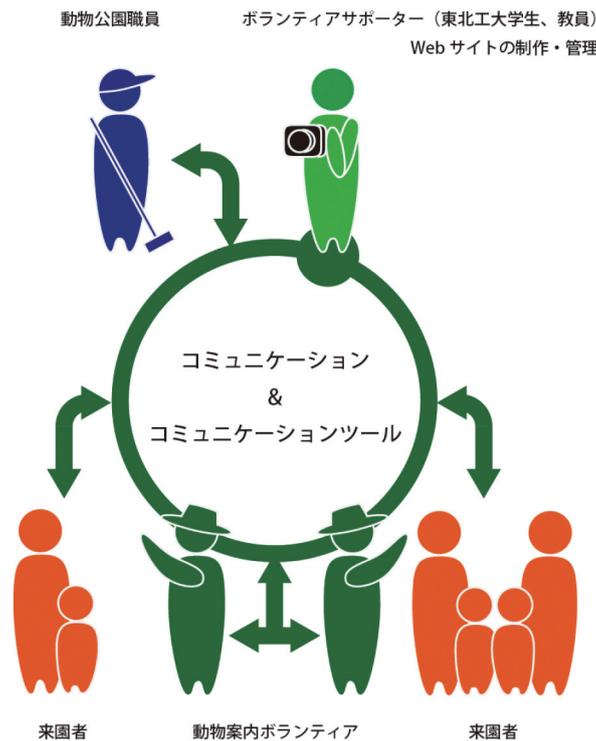


図1. 対象とするコミュニケーション&ツール  
図：筆者作成。

## 2. 活動の経過

### 2.1. メンバーの募集について

検討・準備期間を経て、2011年7月に第1期楽芸員ダッチャ3名（全員八木山地区住民）を認定し、活動をスタートした。2012年8月には、第2期生楽芸員ダッチャ8名（5

名が八木山地区住民, 3名が東北工業大学ライフデザイン学部学生) が, 2014年1月には, 第3期生楽芸員ダッチャ1名(八木山地区住民)が活動に加わり, 認定者は13名になった(うち1名はその後死去)。

ダッチャ候補生の募集は, 第1期は八木山地区連合町内会を通じて積極性があり会話力の高い方を推薦していただき, 2期は八木山地区連合町内会及びライフデザイン学部で募集を実施, 3期は八木山地区連合町内会及び八木山南地区連合町内会及びライフデザイン学部で募集を実施した。第2期第3期募集の広報手段は, 募集チラシを作成し町内会の認可を得た回覧物, ライフデザイン学部でのポスター掲示及び楽芸員ダッチャのWebサイトを使用した。募集範囲の決定は, 地域の活性化というプロジェクトの目的と, 活動がある程度安定するまで募集範囲を限定したほうが意思疎通をしやすいただろうという点を考慮し, 決定した。

第2期の応募者数と比較して, 第3期の応募者数(地区住民1名, 学生2名)は大幅に減っている。特に, 募集地域を拡大したにも関わらず地域の方の応募が減ったのは, 地域で活動されている人の中で新たに案内ボランティアに参加する意思のある方の数が限られており, 関心のある方がすでに参加されていることが伺える。

## 2.2. メンバーの育成について

育成のための研修方法は, 第1期にパイロット育成を行い, 次に示す項目を4回の研修会に渡って実施することとしている。1) 動物公園の役割 2) 動物の情報 3) 施設の説明(一部の施設見学を含む) 4) 好きな動物を選択して来園者の前で説明。現在の楽芸員ダッチャの認定者は全員この研修を受け, 動物公園から認定証を受けている。同時に, 現在は大学チームが作成し, 楽芸員ダッチャが案内・動物説明時に着用するための, 帽子, ウインドブレーカー, Tシャツ, ネームタグ(いずれも楽芸員ダッチャロゴ入り)を提供している。

2013年度の第3期生の育成研修会は, 10月18日, 10月25日, 12月20日, 1月4日に実施した。1月4日の第4回目研修では, 来園者の前で説明の後, 参加した1名に認定証が授与された(図2, 3)。このように, 研修会の開催日が限られるため, 研修日に参加できないと認定されないという問題がある(第3期生の学生2名がまだ研修途中の状態である)。また, 動物公園側の都合により, 研修の間隔が開いてしまうという問題もある。



図2. 育成研修会 獣舎見学 12月20日



図3. 育成研修会 来園者への説明 1月4日

## 2.3. 案内活動について

動物の案内活動は, 基本的には楽芸員ダッチャメンバーが希望すればいつでも実施可

能ではあるが、2013年度冒頭時点では交流会で実施日を検討決定したり、サポーター（ファシリテーター）から呼びかけをしたりして参加者を募る形で実施されていた。

この方式を取ることにしたのは以下の事情による。2012年度は、2011年度の育成研修の最終回が2012年6月と8月にずれ込んだため、活動検討会が9月23日となり、案内は10月11月で5回実施された（10月6日、10月8日、10月28日、11月3日、11月23日、延べ11名参加）（詳細は参考文献2）。また、冬季は来園者が少なく、説明に立つことも大変なため案内は実施せず、冬季研修会を実施している。2012年度の冬期講習会は3回を予定し、第1回が2012年12月1日、第2回が2013年1月27日であったが、第3回が諸事情（動物公園の園長・副園長等担当者の交代等）のため2013年7月5日の実施となった。この実施の遅れもあり、2013年度の案内スタートは大幅に遅れた。こうして2013年度の案内は10月19日、11月2日の2回実施された（延べ3名参加）（ただし、実施日は筆者が把握している範囲のみ）。

## 2.4. 情報共有・発信について

動物公園や地域を活性化するためには、楽芸員ダッチャのボランティア活動を行っている事実そのものと、その活動内容が地域住民や来園者に伝わる必要がある。また、メンバー内でも活動の情報や動物に関する情報を共有することが活動を進めていくうえで必要になる。活動に関する対外的及び内部的な情報共有・発信の内容について次に述べる。

### 2.4.1. 活動情報の発信

メンバーの活動を市民に紹介する場としてWebサイト『動物と楽芸員ダッチャの広場』を開設している（<http://yagiyama-zoo.sakura.ne.jp>）。このサイトは、2011年にライフデザイン学部クリエイティブデザイン学科両角研究室の学生によって制作され、2012年に部分改定を実施している。主に更新している内容は、『ガイド日記』で、案内した内容や紹介された動物の内容を掲載している（図4、5）。なお、このWebサイトは八木山動物公園のサポーター制度である『ウェブサポーター』にも登録されていて、リンクも張られている（[http://www.city.sendai.jp/yagiyama/1213744\\_2444.html](http://www.city.sendai.jp/yagiyama/1213744_2444.html)）。



図4. 動物と楽芸員ダッチャの広場 Top



図5. 案内の記事（2013/10/19）

出所（図4）：URL： <http://yagiyama-zoo.sakura.ne.jp/>（アクセス日：2012/12/27）

出所（図5）：URL： <http://yagiyama-zoo.sakura.ne.jp/archives/gaido/10月19日動物園ガイド>，  
（アクセス日：2013/10/21）

2013年度のガイド日記の更新は、7月から2月までに8回あり、そのうち案内の報告2件、育成研修会の報告が2件、メンバーの交流会&日程調整システム等の講習会報告が2件、その他2件（3期生募集、サポーターの動物公園調査報告）であった。

## 2.4.2. 活動情報・動物情報の共有

### A. メンバーへの連絡方法・案内の調整方法

案内実施のためには、日程調整が重要な作業となり、ダッチャメンバーのモチベーション維持・向上にも関わるポイントとなっている。一人でも案内すること自体は可能であるが、活動が来園者の目につきやすいこと、ダッチャからも来園者からも声をかけやすいこと、複数の方が活発な雰囲気が出やすいことから、ダッチャ自身の希望としても複数名実施の日程の方が参加しやすいとメンバーからは意見をいただいている。また、案内を実施する場合は、実施前に通知してほしいと動物公園側からも希望がある（入場時に楽芸員ダッチャであることを伝えている）。

2012年度までの案内日程の調整方法は電話・FAXが中心であったが、電話等で調整するには多くの時間がかかりサポーターの負担になっており、またPCで電子メールを使用するメンバーも増えてきたため、2012年10月よりグループメールの使用を開始した<sup>1)</sup>。また、案内日等をいつでも確認できるようにするために、日程調整システムを導入した。ただ、実際には使用されなかったことから、ダッチャから意見を聴取したところ、使用しにくいという指摘があったため、2013年度に改訂版の日程調整システムを導入した。

#### a) メールリングリストによる連絡

2013年度における、動物案内並びに研修会等のイベントのお知らせに対するメールによる返信状況をまとめると下記のようなになる（表1）（PC等でメールが使用できる8名（地域住民5名、学生3名）を対象とする）。

表1. イベント通知に対する返信メール数（返信内容はOK,NG問わず  
アルファベットは氏名頭文字）

6月11日交流会	住民3名 K, Su, Ni
8月31日9月1日案内誘い	住民1名 S, 学生1名 E
9月14日15日案内誘い	住民1名 K, 学生1名 E
9月28日案内誘い	住民1名 K
10月19日26日	
11月2日3日	(住民1名 by 電話 Sh)
12月8日	住民2名 K, Na
1月18日講習会	住民2名 K, Su

お知らせに対する反応から、次の3点が推測できる。

- ・メールによる伝達は一定の確率でできている（延べ5名 住民4名/5, 学生1名）
- ・参加可能不可を問わず高い確率で返事をいただけるメンバーがいる（1名）
- ・2012年度の案内には参加者していたメンバーで、2013年度返信の無い方がいるため、受信状態の調査が必要である。

1) ただし、1期生3名（現在2名）はメールが使用できないため、電話・FAXによる連絡を継続している。

## b) 日程調整システムの使用について

2012年、メーリングリストによる調整を補完しつつ、日程調整を実施するアプリケーションを両角研究室学生が開発したが、アプリケーションの入り口が分かりづらいなどの問題があって使用されていなかったため、2013年に同研究室の別の学生が状況改善を試みた。下記がカレンダーの全体表示と個別の予定入力画面である（図6, 7）。



図6. 日程調整システム カレンダー画面



図7. 日程調整システム 予定入力画面

学生が作成したアプリケーションの利用率向上のためには、PCスキルが高くない高齢者にとって簡便な操作方法と、直感的に操作できるインターフェイスが必要となる。これらを含め、筆者らはアプリケーションの使用方法について講習を行い、高齢者にPC操作に慣れてもらうことと、使い心地についての感想を得る必要をかねてより抱いていた。そこで2014年2月に日程調整システムの講習会を開催し、楽芸員ダッチャメンバー3名に参加いただいた。講習内容は、ログインパスワードの登録、案内日程の登録、他のメンバーの案内日程に参加する方法などのフロー説明である。2012年度開発の日程調整システムよりは良いという意見もあったが、1回の講習だけでは使用できるようにならず、その後予定の登録はサポーター（ファシリテーター）が実施したのみで現在は使用されていない状態である。

このように、ユーザーの情報リテラシーや活動の方法に合わせたアプリケーション開発が必要であり、今後の課題となる。

## B. 楽芸員ダッチャ専用の情報の共有 Web サイト『ダッチャの学校』の設置

交流会におけるメンバーの意見として、案内や活動の情報を共有したい、動物の情報をもっと知りたいという強い希望があった。動物情報については動物公園側から情報提供を受けたいところであるが、研修会の実施や情報の提供はタイムリーには難しいことも多い。そこで、楽芸員ダッチャメンバーが得た情報をメンバーだけで共有する Web サイトを制作し、使用してもらうことにした。両角研究室の学生が制作し、試験サイトで検証した後、2013年11月27日に公開された（図8, 9, 10）。なお、このサイトは

WordPress ベースで Simple:Press (Forum Plugin) を使用しカスタマイズしている。またスマートフォン・タブレットに対応するためのプラグインも導入している。



図 8. ダッチャの学校 トップページ



図 9. 八木山動物資料館 トップページ



図 10. ダッチャのしゃべり場 トップページ

以下では、ダッチャの学校（八木山動物資料館，ダッチャのしゃべり場）設置以降の、講習会及びメンバーによる投稿状況をまとめる（サポーターが掲載した情報を除く）。『八木山動物資料館』には、講習会（11/9,11/27）で掲載した情報以外に自宅で投稿した情報が2件あり、ネットワークへのアクセスや文章作成などのかなりの負担をしても動物に関する情報を投稿したいという意欲がみられる（表2）。『ダッチャのしゃべり場』にも、講習会以外に活動の定例化について投稿した内容がみられる（表3，図11）。Webサイトを利用してでもコミュニケーションをしたいと考えるメンバーの要求が感じられる。

出所（図8）：URL：http://yagiyama-zoo.sakura.ne.jp/forum/ 画面を筆者撮影。

出所（図9）：URL：http://yagiyama-zoo.sakura.ne.jp/forum/siryoukan/ 画面を筆者撮影。

出所（図10）：URL：http://yagiyama-zoo.sakura.ne.jp/forum/syaberiba/ 画面を筆者撮影。

表2.『八木山動物資料室』への投稿  
(アルファベットはメンバーの頭文字)

2013年11月9日 11:51 AM,	2013年11月9日 12:03 PM	ラマ K
2013年11月27日 1:47 PM,	2013年11月28日 10:06 AM	フラミンゴ Ni
2013年11月28日 10:29 AM	アメリカビーバー	Ni
2013年11月28日 10:17 AM	フンボルトペンギン	Ni

表3.『ダッチャのしゃべり場』への投稿  
5トピックス (楽芸員ダッチャメンバー投稿件数/総数:含むサポーターの投稿件数)

1) 活動内容 (1件/3件)	2013年11月28日 11:01 AM	Ni
2) 楽芸員ダッチャ案内活動定期化の提案 (2件/5件)	2013年12月9日 11:39 AM	K
	2013年12月9日 3:16 PM	Ni
3) ダッチャフォーラム講習会第2弾 (0件/1件)		
4) 動物園職員へのQ&A (0件/1件)		
5) 3期生研修 (0件/3件)		



図11. ダッチャのしゃべり場上の会話 e.g. 楽芸員ダッチャ案内活動定期化の検討

### 3. コミュニティの活動の価値と発展を阻害する課題

ここでは、本活動の関係する楽芸員ダッチャメンバー、サポーター(大学関係者、支援学生)、動物公園関係者を、『コミュニティメンバー』と呼ぶことにする。

2章では、実際のコミュニティメンバーの活動内容を確認した。3章では、楽芸員ダッチャに関係する人々のコミュニティにとって、活動の価値がどこにあり、またコミュニティの発展を阻害する要因がどこにあるのかを確認する。活動内容や支援内容が適切であるのかを活動内容とコミュニティメンバーにとっての価値から検討することを目的とする。

出所(図11): URL: <http://yagiyama-zoo.sakura.ne.jp/forum/syaberiba/> 楽芸員ダッチャ案内活動定期化の提案 画面を筆者撮影。

### 3.1. 動物案内ボランティアコミュニティにとっての価値と活動形態との整合性

これまでの動物の案内活動を通して、また楽芸員ダッチャメンバーと意見交換した結果から、次のことが確認できた。

#### <活動の価値>

- a) 動物の説明や動物公園の案内活動は、来園者に対して意義あることである。動物公園関係者も来園者への案内実施の意義を認めている。
- b) 案内を実施した結果の記事掲載、来園者からのフィードバックや他の地域住民からのフィードバックがあると、活動／案内参加のためへのモチベーションにつながる。
- c) より良い案内をするためには、学習・研修が必要であり、動物公園からの動物の最新情報提供による支援も必要である。
- d) 案内ボランティア活動を実施するためには、動物公園及びその来園者に活動を認知してもらう必要があり、団体として活動するのは効果的である。
- e) 毎月の固定週・固定曜日には案内ガイドが必ずいるというように、活動の計画性を持つことで、活動しやすくなり、また広報してもらえる可能性が上がる（いつ、誰が、どのような説明をするか）。
- f) 同じ志を持つメンバーで交流することで、モチベーションもアップし、案内内容や、来園者とのコミュニケーションの図り方の面での技術的向上も期待できる。

#### <課題・活動発展の阻害要因>

- g) 案内日にたまたま顔を合わせる程度の交流しかないメンバー同士もおり、案内以外でのメンバーの交流が不足している。
- h) 案内実施の日程調整は重要だが、コスト（手間暇）がかかる。
- i) 大学教員（ファシリテーター）から日程打診の声がかからないと、案内が実施されにくい傾向がある。
- j) 日程調整システムやコミュニティ Web サイトへの関心はあるが、利用するにはシステムの改善（使いやすさの改善）や研修・サポートが必要である。
- k) 動物や動物公園に関する継続的な研修や情報提供が強く望まれているが、動物公園職員は本来業務のみでも多忙な上、生き物の生育上、不慮の事態への対応が求められることの多い動物公園側の対応の自由度は高いとは言えない。
- l) 楽芸員ダッチャメンバーにとって情報の提供・投稿は簡単ではない。公開 Web サイトだと発言しにくい（気後れする）が、クローズドのコミュニティ Web サイトだと情報開示・共有をしてくれる傾向にある。
- m) 楽芸員ダッチャメンバーに対するサポーターメンバー（大学教員、学生）の関わり方は不十分で、メディアリテラシーのサポートなど、もっと広く頻度も上げる必要がある。

## 4. 今後の課題

現状の活動実施状況と、活動に関係するコミュニティメンバーの想い・活動の価値に対する考え方の相違などの観点から、今後対応が必要とされる課題を挙げる。

### 4.1. コミュニティメンバー間の交流の促進

まずはダッチャ同士が同一コミュニティに属する仲間であるという意識を持ち、友人とともに居住地のランドマークであり、シンボルである八木山動物公園を活性化して

いるという自覚を持てるように、お互いのことを知るための交流の機会を増やす必要がある。コミュニティメンバーは、加入期が同一であった場合にはダッチャ育成期間に最大で4回顔を合わせる機会があるが、その間は動物の情報を学習することがメインであって世間話をする時間は少ない。その数回の間に、ダッチャになったらこの人と予定を合わせて共に案内をしようと自然と思うことは困難であると言わざるをえない。ましてや加入期の違うコミュニティメンバーは、研修会への参加をしない限りは他の期のダッチャらを知る機会は少ない。そこで、研修会を中心としながらも、終了後に談話する時間を設けたり、茶話会を開催したり、さらには学生によるPC操作の講習会を開催したりして交流の機会を増やす必要がある。この点で、地域をベースとして地域性を重要視しているこの活動だからこそ期待できるのは、動物公園を離れた場所、例えば生活圏内のスーパーマーケットが同一で、偶然出会って立ち話をするようなケースである。その経験がコミュニティ意識を高め、誘い合っただけで案内をしようという行動に結びつく。つまりコミュニティをベースにしたアソシエーションへの移行が望めるのである。

次に、コミュニティメンバーの役割分担を考える時期に来ている。プロジェクト開始当初から、ファシリテーターとして大学教員が動物公園との調整を行い、次回のスケジュールを決めて案内を発信してきた。この経緯は新たなコミュニティの生成段階でリーダーが不在の中、活動の方向を決め、関係者を巻き込んでいく主体として重要であった。一方で、現段階においてもファシリテーターの関与度が高いことにより、ダッチャの自発性・主体性を阻害している蓋然性がある。極端に表現すれば、教員がガイド実施依頼を投げかけ、ダッチャは受動的にその依頼に応じる形で案内が可能な日程を探しているのであって、ボランティアというよりは教員の期待に応えているという形である。案内をするかどうかはダッチャ自身の自由意志に基づいているとはいえ、本来の意味でのボランティアとして、自発性を伴った案内とは言えない状況である。これを改善する1つの方法として、ダッチャに活動の際の役割を決めてもらうことで活動を円滑にして自発性を引き出す事が考えられる。いわばダッチャには自分自身に付与された役割を適切にこなそうという意識が働き、理想のロールモデルを演じることにより、ダッチャらしさを獲得していくということである。これについても、ファシリテーターが役割分担を提案することがマイナスに働くこともあるため、リーダー等の役割設置の可能性を含め、活動に必要な役割や運営方法をダッチャの意見を逐次聴取しながら検討していく。

なお、学生メンバーはダッチャ候補として研修会に参加したり、サポーターとして案内活動に随行したり、案内状況をWebサイトにアップロードするなどの活動を行っている。しかし、授業やアルバイト等の都合もあり、学習会や案内日に参加できない、あるいは当初抱いていたモチベーションを失い、楽芸員ダッチャやサポーターとしてコミットできない、または事実上コミットしていないケースが多々見られる。次年度はその原因分析と対処法を検討する必要がある。なお、案内の定例化については2013年度末の検討会で決定しており、2014年度に実施する。

#### 4.2. 情報共有方法の改善

『動物と楽芸員ダッチャの広場』（公開Webサイト）、『ダッチャの学校』（メンバー限定Webサイト）、『日程調整システム』（メンバー限定Webサイト）いずれについても、必要なコンテンツを集約し、それらを配置したり実装したという点で評価できる。けれども、ユーザーが気軽にアクセスして活発に情報公開するためにはインターフェイスと操作性を含めてユーザビリティを改善し、ユーザーフレンドリー化する必要がある。と

りわけ、地域住民は高齢者であり、PCの利用経験にばらつきもあり、スキル向上のための手助けも必要となる。

そこで、サポートメンバーによる講習の強化も次年度の課題となる。楽芸員ダッチャメンバーに対して、関係するWebサイトの操作を含めPC・携帯端末の使い方の講習会を実施する計画である。場合によっては本学の教室を会場とし、大学の雰囲気の中で学生と地域住民が同じ時間を過ごすことによって同一コミュニティ感を感じてもらい、上述した学生がコミットしていない問題の解決に繋げる事も検討する。学生は動物公園に「出かけていく」のではなく、自らのフィールドにダッチャに来て頂いて自分の得意なこと、興味のあることをレクチャーするという体験により、コミュニティの中での自分自身の役割に気づき、やりがいを見出すのである。

#### 4.3. メンバー募集

さらなる課題はメンバーの募集範囲を広げるか否かである。現在は地理的にも近く、知人同士という安心感もあって、コミュニティからアソシエーションへの移行が期待できる条件が揃っている。一方で、数年に渡る地域内でのダッチャ候補者募集により、興味を持って参加を検討する方が出尽くしてしまった感もある。本活動を活発化するためにはダッチャの母数を増やし、義務感にとらわれずに案内ができる体制を整える必要があり、募集の範囲を広げることも視野に入れなければならない。ここで、地域を広げて募集活動を行うと、動物マニアと呼ばれるような志願者が名乗り出る可能性もある。来園者に動物の情報を伝えるという意味でダッチャとしての資質は十分であっても、これまで地域性をベースに築きあげてきたコミュニティが崩壊する懸念や、動物公園に対して過剰に動物の新情報を求め、動物公園側の負担を増やす可能性もある。そのため、募集範囲はもちろんのこと、現在は町内会の回覧板や学内でのポスター募集を実施しているが、新広報手段の検討も必要となる。活動が軌道に乗るまでは地域性重視の姿勢を貫き、地域内の他の組織（例えば学校等）へ広報していく可能性も検討する。

#### 参考文献及び注

- 1) 八木山動物公園の魅力度アップを目指した地域住民ボランティア「楽芸員ダッチャ」の育成：佐藤飛鳥，両角清隆，東北工業大学新技術創造研究センター紀要EOS Vol.24 No.1 p.25～p.35, 2012
- 2) コミュニティ形成とボランティア活動促進の課題～八木山地域活性化を目指す「八木山動物公園楽芸員ダッチャ育成プロジェクト」の現状～：佐藤飛鳥，両角清隆，東北工業大学新技術創造研究センター紀要EOS Vol.26 No.1 p.105～p.114, 2014
- 3) コミュニティ・オブ・プラクティス ―ナレッジ社会の新たな知識形態の実践：エティエンヌ・ウェンガー（著），リチャード・マクダーモット（著），ウィリアム・M・スナイダー，櫻井祐子訳，翔泳社，2002
- 4) WordPress：https://ja.wordpress.org/
- 5) Simple:Press：http://simple-press.com/

#### コミュニティ論参考文献

- 大江比呂子（2007）『サステナブル・コミュニティ・ネットワーク』日本地域社会研究所。  
北野収 編著（2008）『共生時代の地域づくり論』農林統計出版。  
橋本和幸（2008）『コミュニティの理論と実際』大学教育出版。  
船津衛，浅川達人（2006）『現代コミュニティ論』日本放送出版協会。  
山崎丈夫（2003）『地域コミュニティ論——地域分権への協働の構図』自治体研究社。